



インフラの町医者と複業化をめざす経営者が集まる建設トップランナー倶楽部(米田雅子代表幹事)は30日から3日間にわたり本県の視察研修会を開催し、山間地で地域を支える仕組みづくりに挑む地元建設業の取り組みや、東日本大震災と東



三島町と浜通り被災地で地域建設業の取り組み視察

建設トップランナー倶楽部

工業佐久間源一郎社長を訪問した。森林面積が86%を占め、過疎・高齢化に悩む山間地域に拠点化に悩む山間地域に拠点を置く同社は、地域維持型JVのモデルとして知られる宮下地区建設業協同組合の中心的存在であり、倶楽部の活動を報告。古民家を活用した定住・二地域居住の推進や、板倉工法を採用した

るほか、森林資源などの木造応急仮設住宅、地域型復興公営住宅などの取り組みを紹介した。空き家となっていた築150年の古民家を企業の開発拠点に作り変えた「清匠庵(せいしやうあん)」も見学。施設は、古民家の風情を残しつつ内・外装を新しい木材に更新。台所やトイレは最新の設備を取り入れた。ビッグデータ解析を専門とする誘致企業「株式会社oer」の高枝佳男社長は「来訪したビジネスパートナーの10割が満足して帰る」と説明した。

2日目は浜通りに移動。橋本町の「道の駅なつてしまつた」と述べ、

視察した。京電力福島第一原子力発電所事故で大きな被害を受けた沿岸地域での復興・復興作業のようを日三島町の佐久間建設

原発事故の影響の大きさを強調。全国からの励ましの声で活動を再開し、「将来の子どものため、原発に負けない、世界一素晴らしい地域にしたい」との思いの一端を進めている。ふくしま浜街道・桜プロジェクトを紹介した。参加者に対しては「治安が悪化している現実もあるが、避難先から戻って頑張っている人もいる。現地を自分の目で見て、肌で感じてほしい」と求めた。

視察した。いわき市では、全壊したもののいち早く再建した「道の駅よつくら港」で昼食後、新舞子海岸、豊間中学校、塩屋崎灯台等を視察し、災害公営住宅豊間団地新築工事現場を見学した。山本・加地和特定JVの高輪満宏現場代理人が工事概要を説明し、質疑応答では専門工や資材の調達状況、工期等について質問が出され、PC造の採用や内装のプレハブ化等により、合計102戸が約15カ月工期で完成する見通しがあることが説明された。中央台高久地区の応急仮設住宅群、小名浜港も視察した。